

## 「人生のやる気デザイン」研究部会（第36回）

日時：2023年6月26日（月）午前10：30～12：30

場所：オンライン

出席：渡辺弥生・榎本淳子・倉住友恵・杉本希映・中井大介・中谷素之 各兼任研究員  
山口和人所長・金沢千秋・泉水里香（野間教育研究所事務局）

内容：（1）中谷研究員：対話的な学びと動機づけについて

1. 対話的な学びの理論的意味づけである「ピア・ラーニング」（20013、中谷・伊藤）について、これまでの経緯と現状の報告
2. 「友人との学びと学習・動機づけの効果に関する研究」として、先行研究の紹介  
Tanenbaum, H., R., Winstone, N. E., Leman, P., & Avery, R. 2020 How Effective Is Peer Interaction in Facilitating Learning? A Meta-Analysis. *Journal of Educational Psychology, 112*, 1303-1319.  
さまざまな学習領域における仲間との相互作用の効果性に関するメタ分析を示し、理論と実践のための、効果的なモデレーター（媒介要因）を探る

（2）杉本研究員：どのような動機づけと関連したグリットが Well-being を高めるか、好奇心・パッションとのバランスに着目した調査の分析結果について報告

1. 目的：第一に、グリットと好奇心、パッションとの関連を明らかにする。好奇心の「探究の喜び」、「欠乏の感受性」、「ストレス耐性」は正の影響力、パッションの「調和性パッション」は正の影響力、「強迫性パッション」は負の影響力あるいは影響力なしが予想される。第二に、どのようなバランスで個人がグリット、好奇心、パッションを有しているかで群分けをし、その群と Well-being との関連を探索的に明らかにすることを目的とする
2. 方法：20代から50代の成人、各年代100名程度、計450人（男性226人/女性224人）
3. 調査内容
  - ①個人属性：性別、年齢
  - ②日本語版 Short Grit (Grit-S) 尺度（西川他、2015）：「根気」・「一貫性」の2因子、8項目5件法
  - ③日本語版好奇心5次元尺度（西川、2018）：「探究の喜び」・「社会的好奇心」・「欠乏の感受性」・「スリル探求」・「ストレス耐性」の5因子、25項目7件法
  - ④パッション尺度日本語版（久保・沢宮、2018）：「強迫性パッション」・「調和性パッション」の2因子、12項目7件法
  - ⑤主観的 well-being 尺度：（伊藤・小玉、2005）：「抑うつ」、「不安」、「人生に対する満足」の3因子、9項目4件法・7件法

- ⑥心理的 well-being 尺度短縮版（岩野他，2015）：「人格的成長」、「人生における目的」、「自律性」、「環境制御力」、「自己受容」、「積極的他者関係」の7因子、24項目6件法
4. 以上の結果と考察を報告

・次回研究会 8月28日（月）13：00～